

# 大島事業所トピック

No. 306

(旧大島分場トピック)

平成 17 年 10 月 29 日

島しょ農林水産総合センター大島事業所発行  
〒 100-0212 東京都大島町波浮港 18  
Tel 04992 (4) 0381 Fax 04992 (4) 0383  
ホームページ <http://www.fish.metro.tokyo.jp>

## 「海の恵み」大島シンポジウム開催される！

--- アントクメ（ヒロメ）復活に向けた産学公による取り組み ---

東京都の海（東京湾、伊豆諸島、小笠原諸島）では、海藻やサンゴ礁の消失、サメによる漁業被害など様々な異変がみられています。東京都では現在、プロジェクトチームを発足させ、これらの問題解決に取り組んでいます。今回は伊豆大島で取り組んでいるアントクメの藻場回復について 10 月 22 日にシンポジウムを行いましたので、ご報告いたします。

### ・大島の海に異変？

海の中の森（以下「藻場」という）は、サザエやアワビなどに餌を供給するほか、魚たちの産卵、生育の場などとして、海の生態系の重要な役割を担っています。大島では平成 10 年頃からアントクメ（地方名：ヒロメ）の藻場が減少し、サザエやアワビの漁獲量も減少してしまいました。そこで、東京都は、首都大学、海洋大学、大島南高、漁協などと協力してプロジェクトチームを発足させ、藻場復活に向けた調査を行っています。



写真1 アントクメの藻場

### ・藻場の復活に向けて

シンポジウム当日は、ほぼ満席の 115 名の方に参加していただき、地元の皆さんの、関心の深さを知ることができました。基調講演



写真2 シンポジウム会場（大島勤労福祉会館）

では、アントクメを含めたコンブ科海藻の生理、生態や環境との関係について解説がありました。また、一般講演では、首都大学の藻場消失に関わる食害動物や栄養環境についての調査結果や、地元漁業者の自主的な藻場回復のための取り組み、大島南高校生による生長調査や繁茂域調査結果、大島事業所による生活史解明、移植試験結果が発表されました。

これらの取り組みの結果、大島では少しずつではありますが、アントクメの生息域が広がってきていることが判明しました。今後は、さらにアントクメ藻場の完全復活を目指すとともに、藻場の消失の原因を探るため、様々な調査の必要性を確認してシンポジウムを終了しました。お忙しいなか、参加していただいたみなさまに、心よりお礼申し上げます。